

課題対応取組報告書

名称	旭区地域包括支援センター				
提出日	令和	7	年	7	月 3 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	認知症等になっても住み慣れた地域で自分らしく生活するために	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①地域ケア会議の事例の93%が認知症等精神疾患に罹患している。 ②地域ケア会議の事例の87%が地域から孤立している。 ③家族がいる事例の40%は家族も精神疾患であり、キーパーソン不在である。地域ケア会議の事例の47%がケアマネジャーからであり、ケアマネジャーは高齢者の最も身近な存在であると同時に、複合的な課題を抱えたケースの対応に苦慮している	
対象	地域住民、専門職	
地域特性	高殿地域には高齢化率57%、単身率46%のA集合住宅があり、A集合住宅から突然死の報告、精神状態が悪化し近隣トラブルの報告により初めて旭区地域包括支援センターが対応するといったケースもある。 高齢化率は大阪市の24.6%と比較すると大宮地域32.0%、高殿地域29.3%、高殿南地域30.7%であり、いずれも高齢化率が高く、認知症に関する相談割合も35%と高い。高齢化の進行にともない、詐欺被害や金銭管理の相談も増えている。 また、精神疾患の方が65歳を迎え、包括が対応する事例が増加し、その方々も対応が増えてきているとともに、ケアマネジャーから複合的な課題を抱える事例の相談も多い。	
活動目標	①認知症の人が地域から孤立しないよう、地域住民等の認知症に対する認識が高まり、「認知症」は他人事ではなく、自分事として捉えることができるよう、また予防啓発活動をととして地域の輪ができるよう引き続き支援する。 ②高齢者が支援困難になる前に早期に必要な社会資源につながるよう、まずは地域住民が「包括」を知ることができる。 A集合住宅の住民がお互いに交流でき、支援困難になる前に早期に必要な社会資源につながるができる。 ③ケアマネジャーの複合的な課題を抱える事例の対応力や認知症対応力が更に向上する。	
活動内容 (具体的取組)	①認知症の講習会を開催 日時：令和6年5月15日 参加者：17人 内容：第1部「認知症講演会」講師：松本一生先生 第2部「ちょこっと相談会」 ①認知症予防啓発活動 「もの忘れ予防ゲームリーダー養成講座」全5回開催 参加者：8人（修了証発行） 目的:認知症予防、脳トレのゲームを習得し、地域で活躍できる人材の育成。 「もの忘れの気になる人の会」 日時:毎月第4火 13:30～14:30 全11回 参加者：延196人 「もの忘れの気になる人の会in大宮」 日時:毎月第3木 14:00～15:00 全11回 参加者：延196人 ②講習会・健康講座等の開催 内容：第1回 認知症講習 第2回介護予防 第3回フレイル予防 日時:令和6年7月18日、11月18日、令和7年3月7日 対象：A集合住宅住民 参加者：33人 ※旭陽ランチ協働開催 ③合同事例検討会等の開催 「複合的な課題を抱える事例の合同検討会」 日時:令和6年5月23日 対象:ケアマネジャー、相談支援専門員 主催:旭区内3包括、自立支援協議会高齢・障がい部会、旭けあねっと ①②③ 「地域ケア会議を通じて考えよう『ともに“支え合う地域”ってどんなの？』」の開催 目的：地域から孤立している世帯の増加、支援拒否や支援につながるまで長期化するケースも増えており地域住民と多職種で「ともに支え合う地域づくり」を一緒に考えることで孤立世帯の支援の在り方を考える機会とする 参加者：46人 地域住民（町会長・民生委員）、関係機関、居宅介護支援事業者、サービス事業所等 内容：孤立世帯の事例をもとに地域での支援を考える（グループワーク等） ※旭陽ランチ協働実施	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・もの忘れ予防ゲームリーダー養成講座は、8人が受講。もの忘れの気になる人の会（2か所・月に1回開催）には延392人が参加している。 ・A集合住宅で、健康講座（全3回）を開催し、延33人が参加し、アンケートでは全員からとても良かった、良かったとの感想が聞かれ、このような場があればまた参加したいとの声もあった。（別紙1参照） ・合同事例検討会では、50人を超えるケアマネジャーが参加し、事後アンケート結果では98%から役に立つとの回答があった。 ・「地域ケア会議を通じて考えよう」では、参加者から、多職種や地域住民とのつながりが持てた、また参加したいとの感想が多かった。地域住民と専門職がともに考える機会となり、自分たちの問題として捉えることで早期介入につながると思う、地域の人を大事にしていける社会にしたいとの感想が聞かれた。（別紙2参照）
今後の課題	・もの忘れ予防ゲームリーダーが少なく、現在活動中のリーダーに負担がかかっていることから、引き続きリーダーの養成が必要である ・A集合住宅の健康講座については、既に地域活動等に参加している人が多く、これまでに何らかの活動や支援者につがっていない住民の掘り起こしが課題 ・地域住民と専門職がともに地域で暮らす認知症高齢者等について、ともに考える場を継続して開催し、さらにつながりや理解を深める必要がある
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月24日(木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	・認知症等高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように地域住民を対象とした講座や相談会を実施されている。地域分析に基づき特定の住宅における健康講座を実施するなど、工夫を重ねながら認知症の正しい理解の普及に努められている点は「地域性」「継続性」「浸透性、拡張性」に該当すると考える。 ・独自の取組みである認知症予防啓発活動は地域住民と連携し、PDCAサイクルを回しながら継続されている。5つの視点すべてに当てはまると考えるため、今後も引き続き地域に根差した活動を発展させていきたい。 ・介護支援専門員の対応力向上のための事例検討会や研修会は、介護支援専門員のスキルアップの一助となっており、「継続性」や「浸透性、拡張性」「専門性」に該当すると評価できる。 ・ランチと協働して新たに実施した「地域ケア会議を通じて考えよう」は、地域での支援を考える機会となり、「地域性」「独自性」に該当すると考える。 ・特定の住宅における健康講座には介護予防に関する内容も含まれており、「地域性」「専門性」「独自性」に該当すると評価できる。